

## 平成 26 年度 第 1 回生物多様性推進部会 会議録（要旨）

【開催日時】 平成 26 年 7 月 8 日（火） 午後 2 時～午後 4 時

【開催場所】 西宮市職員会館 大会議室

【出席者】 <事業者> NPO 法人こども環境活動支援協会 理事 小川 雅由 氏

西宮商工会議所 常務理事 野島 比佐夫 氏

<専門家> 兵庫県立大学 教授 服部 保 氏

神戸女学院大学 教授 遠藤 知二 氏

関西学院大学 教授 佐山 浩 氏

西宮自然保護協会 会長 三宅 隆三 氏

<事務局> 産業環境局長 他 11 名

### 【主な内容】

<組織改正等のお知らせ>

<報告事項>

1. 広田山公園コバノミツバツツジ保全・再生管理計画について
2. 甲山グリーンエリア地域連携保全活動計画について
3. その他（海浜植物再生のための植栽について）

<検討事項>

今年度の生物多様性戦略推進のスケジュール及び取り組み内容

今後の検討内容と開催時期

広田山公園での活動の進め方

今後の推進計画の進め方について

### 報告事項

1. 広田山公園コバノミツバツツジ保全・再生管理計画及びコバノミツバツツジの育苗状況について（事務局説明）

### 《質疑応答》

- ・生物多様性地域連携促進法での補助金をつかっているか。（委員）

甲山グリーンエリアの管理計画策定の際に使った。（事務局）

- ・種子から育てた苗はどれくらいあったか。（委員）

蒔いてから 1 年 7 ヶ月となっている。（事務局）

- ・鉢の数はどれくらいか？（委員）

鉢で 70 余りある（委員）

分けると 300～500 株くらいになる。西宮市ではうまくいっている。六甲山系で神戸市も苗を育てようとしているが、うまくいっていない。（委員）

## 2. 甲山グリーンエリア地域連携保全活動計画について（事務局説明）

### 《質疑応答》

- ・薪は有料なのか？また、薪以外の活用はどのようなものがあるのか（委員）

薪は有料である。薪以外には、クラフトやしいたけのほだ木、体験型のイベントでの利用などを考えている。（事務局）

実際に薪割り機を使ったり、乾燥をさせるための倉庫の用意などが必要である。コストなどを考えながら料金設定をする必要がある。また、利用者側のニーズに合わせながら、どの樹種を利用するのかといったことも含めて検討しなければならない。

（委員）

柴は燃えやすいので、それを活用することもお勧めしたい。（委員）

- ・地域連携促進法は、今回の事業の中でどこに適用しているのか。（委員）

計画策定のための自然調査、検討委員会の会議に関する資料の費用の一部に適用している。（事務局）

構想のすべてが促進法の援助か。（委員）

そのとおり。基本的な計画策定に関して、国の補助金を活用している。（事務局）

西宮市の新しいものに迅速に取り組む姿勢は大事である。（委員）

計画にかかる里山ボランティアセミナーの報告について（事務局説明）

### 《質疑応答》

- ・コープこうべでも社家郷山で企業の森づくり活動として活動をしている。社家郷山にもキャンプ場があり、コープこうべの目指すところと西宮市の目指すところが合致したため、今回は多くの方に活動に関わってもらえるよう、共催をしている。（委員）

市外の人の参加者はいるのか？（佐山委員）

内訳はわからないが、コープこうべの組合員や近隣の尼崎、宝塚、神戸からも参加がある。地域連携ということで、受け皿は広くしたいと考えている（事務局）

現在ボランティアとして活動していただいている人にも、新たに受講してもらっている。定番でやっていただく方は約30名で、循環利用の取り組みに主に関わっていただく。都市型里山という新しい概念を理解していただかないと、ボランティアの方向性が定まりにくいというのがある。（委員）

社家郷山が里山的に利用できる点がおもしろい。コープの方も林野庁から助成金が入るのでもっと進むと思う。（委員）

## 3. その他（海浜植物再生のための植栽について）（事務局説明）

- ・現存する海浜植物の一覧はあるのか？（委員）

NPO法人を通じてもらったデータがある。（事務局）

今回のような記録は、重要な資料となるのでしっかりと残して。どこの種で、どこで育った苗がどこに植えられたのかがわからなくなった事例があるので、注意していただきたい。（委員）

- ・トライやるウィークとは何か？（委員）

兵庫県下の中学2年生が社会体験をするというプログラムがある。今回の件は、甲子園浜自然環境センターで受け入れをした学生が参加をした。（事務局）

外来植物を除去するイベントをするというのは、どのようにする？（委員）

アメリカネナシカズラを中心に取るという予定である。（事務局）

在来の植物が駆逐されているエリアを中心に実施するとよい。守るべきものから守るとするのは重要である。（委員）

#### 検討事項

#### 1.今年度の生物多様性戦略推進のスケジュール・各種取り組み内容について(事務局説明) (広田山公園コバノミツバツツジの保全・再生管理計画に関して)

- ・広田山公園マニュアルが作成されるまで勝手な活動をしないように、参加者をある程度コントロールをする必要がある。初めての方も多いかと思う。最初の段階で、基本となる方針の確認と、それに基づいた活動をするという認識をもたせて実行するのが重要である。（委員）

だれがリーダーになるのか。（委員）

今の段階ではリーダーはいない。市が委託するコーディネーターに入ってもらい、マニュアル作りをする段階となっている。（事務局）

保存会などの核となる団体のリーダーによって、活動方針が代わってしまう。注意していただきたい。「尼崎 21 世紀の森」など同じ 1 人のリーダーがうまくやっている。トップに立つリーダーが大事である。（委員）

#### (調査体制の構築について)

- ・これまでの調査結果のデータベースをまとめ、生き物図鑑を作成するイメージでホームページを作成する。また、幅広い市民や団体が参加できるよう、地図を活用したシステムの開発や、学習用資料として活用できる仕組みも同時に検討していく。（事務局）

西宮市は、GIS（地理情報システム）が非常に進んでいる。地図上での点での発見場所なども処理できるよう調整している。市民や研究団体、学校園が幅広く利用できるようにするのがよい。（委員）

この調査体制の構築は、何を目指しているのか？（委員）

生物多様性にしのみや戦略中の P 5 5 ~ P 5 6 に記載されている数値目標の生きものの現状を正確に把握するためである。（事務局）

戦略策定時の 3,637 種のデータは、日常的なものは普段あまり把握できていない。3,637 種がどんなものなのかを把握するためにも辞書化、写真があるものは写真を入れ込んでいって、図鑑化を図り、一般の方にも興味を持っていただきながら、実際にどれくらいの種を現存するものとして把握できるのかを調べていく。辞書化した以外のものも出てくるが同定する際にどのような体制でいくかは検討が必要。戦

略を推進するためにも、文献だけではなく、どの種の生きものが実際に見られるかどうかを調べるのが重要なので、まず 3,637 種の現状の把握及び保全状況の指数のひとつとして取りかかろうとしているところである。(委員)

調査体制の構築に関して、誰が 3637 種について、目標をたてていくか。(委員)

詳細はまだ決められていないが、生物多様性戦略の評価をしていく中で、どのようにデザイン(枠組み)を作っていくかという事と絡めて考えたい。(事務局)

データすべてを図鑑のようにする、あるいはその中から重要な生物などをリストアップするのは労力が大きい。今後の方向性については、随時検討を重ねていただきたい。(委員)

希少種、外来種というデータは最低限の重要事項についてはデータの中に入れていくが、西宮の山・川・海の環境に応じた代表的な生物種のデータを環境保全活動等におけるバロメーターとして、どのように活用するか等の議論ができていない。今後、調査・研究を通して団体や各種研究機関などからいただいたデータを統合するなかで、将来的にどのようにデータを使っていくのか 部会で方向性を出さないと外には出せないものだと考える。(委員)

今後、課題をクリアしていくための予算的な裏づけはあるのか。(委員)

予算の確保に関しては、なかなか厳しいものがあるが、今年度で取り組むものとしている。(事務局)

#### (部会の進め方について)

- ・今後の部会の進め方として、3 回目に、「甲山グリーンエリア地域連携保全活動計画」の進捗状況と今後の展望を再確認するための機会及び甲山以外での生物多様性に配慮した里山整備の状況展開を把握することを目的とした事例紹介の場を部会の中で設けてはという形で案をあげている。(事務局)

西宮市では、市民団体が立ち上げて生物多様性に関わる活動をしているというものが少ない。今動いているのは「ナシオン創造の森育成会」ぐらいか。(委員)

P S 会議との流れで部会の内容を検討するとすれば、生物多様性戦略において 30 年度までの計画に挙げられている事項など、西宮全体の環境計画の進捗管理を各個別計画の中で行わなければならない。計画がどこまで進んだのか、重点施策の進捗状況等、年に 1 回ぐらいは網羅的に調べ、評価できる材料をつくる必要がある。特に市民団体ほか企業など行政以外が行っている活動についての報告がないので、取り組み全体が見えてこない。市として今後、市民団体、大学での取り組み等々、市が予算を出して取り組んでいる内容以外にも情報を集めるシステムを確立することも今後の取り組みとして検討してもらいたい。今年度末ぐらいには、ざっくりと情報を集めて整理・把握し、来年度ぐらいには中間評価できるような方向性がある。(委員)

### (希少動植物ほか社寺林の保全に関して)

- ・メダカ为学校というイベントはどういうものか。(委員)

毎年、川の学習施設で行っている啓発のイベントである。(事務局)

- ・社寺林の保全について、樹種は特定しているのか?(委員)

樹種は特定していない。対象となっている社寺林においても、これから樹木医などと協議し、検討をしていく予定である。(事務局)

推進する上で、照葉樹林の再生についても、西宮の樹種にこだわった植樹を考えていくことも考えなければ。他府県産の樹木が植樹されることがないように注意をしていただきたい。地域性のある苗が入手しにくいときの対処など、また考えなければならぬ。(委員)

### (その他)

- ・遺伝子の多様性は、全国的に課題となっている。社寺林や山・川・海がある西宮市は、西宮産の苗木を育てるといったような活動ができる。「尼崎21世紀の森」も領域に、尼崎・芦屋等と連携すると地域独自のものを移動でき、保全だけでなく広げることができる。「尼崎21世紀の森」と連携をしながら、今後様々な活動を検討して欲しい。(委員)

西宮市産の苗木を生産するという仕組みを作るのは重要である。ぜひ検討をしていただきたい。(委員)

西宮、尼崎が持ってないものを交換しあえればよい。(委員)

緑化推進計画は、最近何か見直しがあるのか?(委員)

特に中間見直し等の予定はない。市民一人当たりの公園面積など、ハード面を問われることが多い。生物多様性への配慮については、「生物多様性にしのみや戦略」があるので、緑の基本計画について、生物多様性を踏まえて見直す必要はないと思われる。生物多様性のステージとして緑の基本計画はある。なお、全体のマスタープランの位置づけはなく予算的な裏づけもない状況なので、五次総が確立し全体が見えた段階で明確にしていきたい。最終的に、都市環境全体の向上に必要な緑地化、その動機づけとしてこの戦略は重要になる。(事務局)

緑の面積については、防災も含めて質の問題になる。どれとどれをリンクさせるか。予算・評価とも連動させカバーする必要がある。全国的な評価がないと予算確保が難しいだろう。(委員)

次回の開催日程について

11月頃を目途に、後日事務局から調整を行う。

以上